

# 日本人市民に対する 多文化共生アンケート

令和2年4月

八潮市



## 目次

### 第1章 アンケートの概要及び回答者の属性

#### 1. アンケートの概要

- (1) アンケートの目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) アンケートの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### 第2章 町会・自治会長向けアンケート集計結果

#### 1. アンケート結果の詳細

- (1) 町会・自治会区域内に外国人市民が住んでいるか・・・・・・・・ 2
  - (1) - 1 外国人市民が町会・自治会に加入しているか・・・・・・・・ 3
  - (1) - 2 外国人市民の加入世帯数及び国籍・・・・・・・・ 3
- (2) 外国人市民への対応で困った経験の有無・・・・・・・・ 4
- (3) 外国人市民について地域住民からの意見や苦情の有無・・・・ 5
- (4) 地域で外国人市民と共生するために必要な取り組み・・・・ 6

### 第3章 地域住民向けアンケート集計結果

#### 1. 回答者の属性

- (1) 性別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (2) 年代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (3) 同居している子どもの有無・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 居住地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (5) 地域での居住年数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

#### 2. アンケート結果の詳細

- (1) 居住地域に外国人市民が住んでいるか・・・・・・・・ 10
- (2) 外国人市民との付き合いの有無・・・・・・・・ 11
  - (2) - 1 付き合いの場について・・・・・・・・ 12
- (3) 外国人市民が地域社会に与える影響・・・・・・・・ 13
- (4) 外国人市民への偏見や差別の有無・・・・・・・・ 14
  - (4) - 1 偏見や差別を感じる場面・・・・・・・・ 15
- (5) 外国人市民との付き合いで困った経験・・・・・・・・ 16
- (6) 地域で外国人市民と生活するうえで大切なこと・・・・ 17
- (7) 外国人市民に望むもの・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (8) 外国人市民と共生するために自分ができること・・・・ 19
- (9) 外国人市民と共生するために参加したい活動・・・・ 20
- (10) 外国人市民との共生のために市役所に求める取り組み・・・・ 21
- (11) 外国人市民との共生のために必要な取り組み・・・・ 22

## 第1章 アンケートの概要及び回答者の属性

### 1. アンケートの概要

#### (1) アンケートの目的

八潮市では、日本人市民と外国人市民が互いの国の文化や習慣などの違いを理解し、地域で支え合い、共に歩む地域づくりなどを進めるため多文化共生推進プランの策定を予定している。

プラン策定の参考とするため、日本人市民に多文化共生に関するアンケートを実施した。(八潮市外国人市民意識調査は令和元年8月に実施)

#### (2) アンケートの概要

調査地域	八潮市全域
調査対象	I 町会・自治会長 II 八潮市在住の満18歳以上の日本人市民
調査方法	I 町会・自治会長へ手渡し、または郵送で配布 II 町会・自治会長より地域住民へ配布 I II 郵送または窓口で回収
配布数	I 44人 II 440人(1町会10人程度)
有効回答数	I 40人 II 298人
無効回答数	I II 0人
実施期間	令和元年12月～令和2年3月

#### (3) 報告書の見方

- ・回答の比率(%)は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・各設問の回答者数を“n”(number of case)と表し、基数となる“n”を100.0%として各選択肢の回答比率を算出した。したがって、複数回答(1人の回答者が2つ以上の選択肢を選ぶことができる形式)の設問は回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- ・設問の中には回答者を限定するものがあり、“n”が少ない場合がある。

## 第2章 町会・自治会長向けアンケート集計結果

### 1. アンケート結果の詳細

#### (1) 町会・自治会区域内に外国人市民が住んでいるか

貴町会・自治会区域内に外国人市民は住んでいますか。(図表 1-1)

	件数	構成比
住んでいる	35	87.5%
住んでいない	2	5.0%
わからない	3	7.5%

町会・自治会区域内に外国人市民が住んでいるかについて、およそ9割が「住んでいる」(87.5%)と回答した。(図表 1-1)

(1) - 1 外国人市民が町会・自治会に加入しているか

貴町会・自治会に外国人市民が加入していますか。(図表 1-2)

	件数	構成比
加入している	22	62.9%
加入していない	13	37.1%

(1) で「住んでいる」の回答のうち、外国人市民が町会・自治会に「加入している」割合は6割を超えている。(図表 1-2)

(1) - 2 外国人市民の加入世帯数及び国籍

何世帯くらい加入していますか。分かれば国籍も記入してください。

(図表 1-3)

八條地区	約30世帯
潮止地区	約20世帯
八幡地区	約30世帯

注記：回答が明確でない町会・自治会もあるため、参考値として掲載

加入している外国人の国籍については、「ベトナム」「中国」と回答した町会・自治会が最も多く、その他「フィリピン」「パキスタン」「インド」「インドネシア」などが挙げられた。(図表 1-3)

(2) 外国人市民への対応で困った経験の有無

外国人市民の対応について、困っていること（または過去に困った経験）はありますか。（図表 2）

	件数	構成比
ある	18	45.0%
ない	20	50.0%
無回答	2	5.0%

外国人市民への対応で困った経験の有無について、「ある」（45.0%）と「ない」（50.0%）がおおよそ半数に別れた。（図表 2）

(2) で「ある」の回答のうち、内容については以下の通りである。

(複数選択可)

- ①ごみの問題 … 14 件
- ②ルール・マナーを守らない … 14 件
- ③町会・自治会への未加入 … 12 件
- ④情報が伝わらない、伝わりにくい … 10 件
- ⑤生活音がうるさい … 9 件
- ⑥日本語が不自由なため、適切な情報提供ができない … 9 件
- ⑦その他 … 4 件

(3) 外国人市民について地域住民からの意見や苦情の有無

外国人市民に関する内容で、地域住民から意見や苦情等がありますか。

(図表 3)

	件数	構成比
ある	12	30.0%
ない	23	57.5%
無回答	5	12.5%

外国人市民について地域住民からの意見や苦情があるかについて、「ない」(57.5%)が過半数を占めた。(図表 3)

(3) で「ある」の回答のうち、内容については以下のとおりである。

【自由記載一部抜粋】

- ・ゴミの分別、ルールを守らない。 … 8 件
- ・町会の役員を輪番制で行っているが、外国人は言葉の問題で順番を飛ばしているため、なぜ外国人は役員をやらないのかと意見がある。
- ・騒音がある。
- ・住民と交流しない。

(3) で「ある」の回答のうち、問題解決のために行っている内容について、以下の取り組みが挙げられた。

【自由記載一部抜粋】

- ・班内で話し合いの場を設けた。
- ・ごみカレンダーを渡して説明した。
- ・日本人と外国人のごみの集積場所を別々にした。
- ・UR(都市機構)にお願いしてベトナム語のビラを作成してもらった。
- ・家主や市に相談して対応してもらった。



#### (4) 地域で外国人市民と共生するために必要な取り組み

地域で外国人市民と共に暮らすためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(日本人市民の取り組み、外国人市民の取り組みなど)

##### 【自由記載一部抜粋】

- ・外国人にもわかりやすい文章（絵表示など）を作る。皆で集まる機会を作る。
- ・外国人だといって、皆の仲間に入れないことはしないで、班で話し合っしてほしい。外国人の方は日本語で多数の方がしゃべると、話がわからなくなってしまうと外国人に聞いたことがあるので、ゆっくりとしゃべると良いと言われたことがある。
- ・それぞれの国の食文化を紹介する機会を作る。交流会の開催。
- ・日本語に関する学習支援をする。交流や話し合える場を設ける。
- ・町会行事への参加の声かけ等「こちらから」の姿勢で接する。
- ・近所の住人が先ずは挨拶から時間をかけて説明や勧誘をする。
- ・お互いの理解を深めるために、イベントや交流会など定期的に行ったほうが良いと思う。
- ・外国人との交流を目的にふれあいサロンなどへお誘いしても出てこない。
- ・自然に接している。
- ・日本に適応するようにルールやマナー等についての教育をして欲しい。
- ・お互いの文化の理解や習慣の違い等、地域内での交流をするべき。
- ・先ずはあいさつを交わす。共通の話題があればその事で言葉を交わすようにする等。
- ・明るくあいさつをする。国籍、職業、滞在期間等、近隣の皆さんに自己紹介できるパンフレットを作って頂き、町会自治会の方も気軽に会話ができるシステムを作って頂きたい。
- ・交流を深める活動。
- ・日本人市民の生活習慣を知ってもらう。外国人市民の国民性を知る。共通の話題を多く作るようにする。
- ・相互に文化を知る事かな？
- ・近隣にいない為、特に必要と感じたことはなかった。
- ・共同住宅に外国人が多数居住しているが、生活実態がわからない。早朝迎いの車で仕事に行く人もいれば、日中ぶらぶらしている人もおり、一室で何名が生活しているのかも不明。町会では情報収集が出来ないので、行政機関において実態調査を行い、町会に情報を提供していただきたい。

- ・コミュニケーションが大事です。その為には日本語を勉強してもらう必要があります。従って外国人向けの公立のコストの安い日本語教室が必要です。
- ・「郷に入っては郷に従え」のとおり、その国、土地の言語、風習を熟知してから入国すべき。

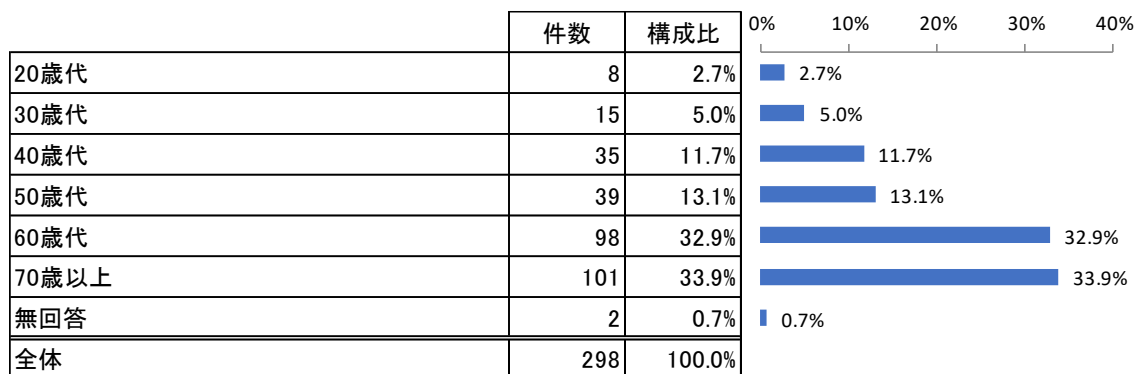
### 第3章 地域住民向けアンケート集計結果

#### 1. 回答者の属性

##### (1) 性別



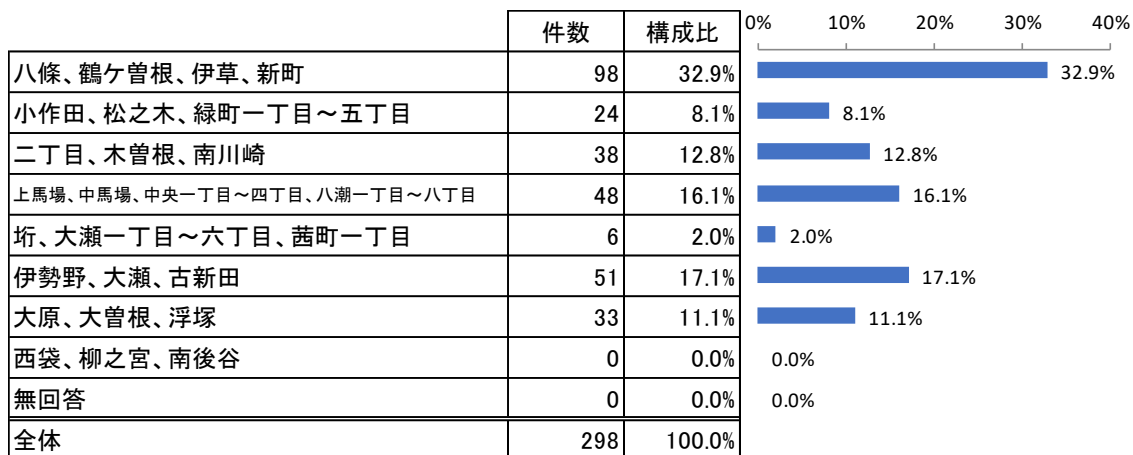
##### (2) 年代



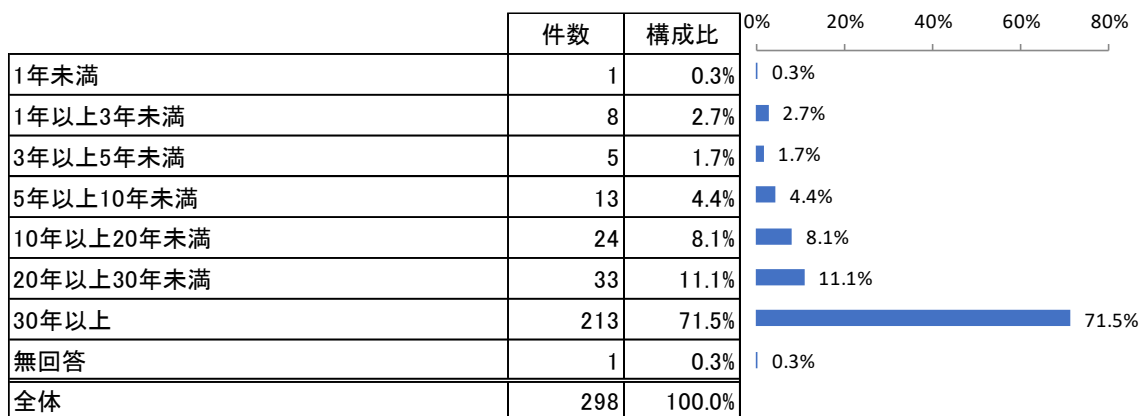
##### (3) 同居している子どもの有無



#### (4) 居住地域

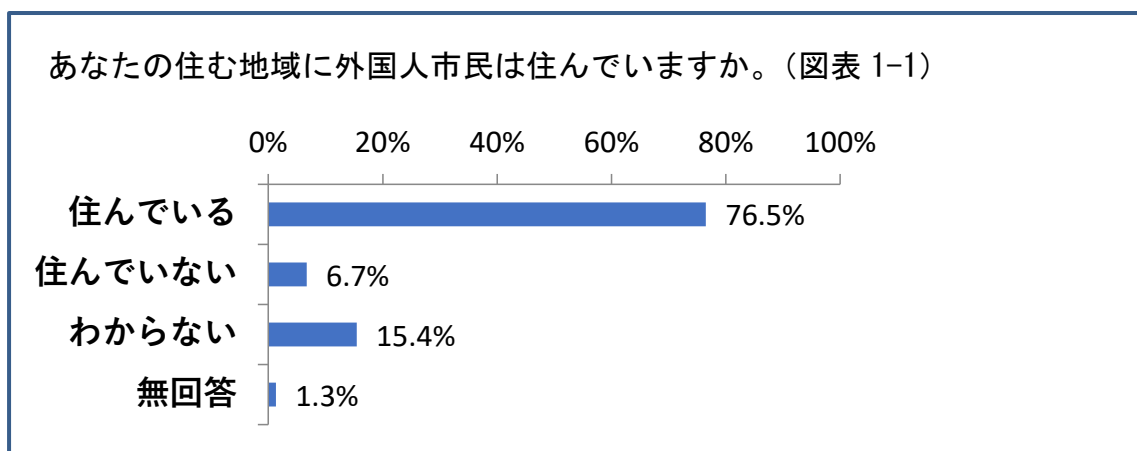


#### (5) 地域での居住年数



## 2. アンケート結果の詳細

### (1) 居住地域に外国人市民が住んでいるか

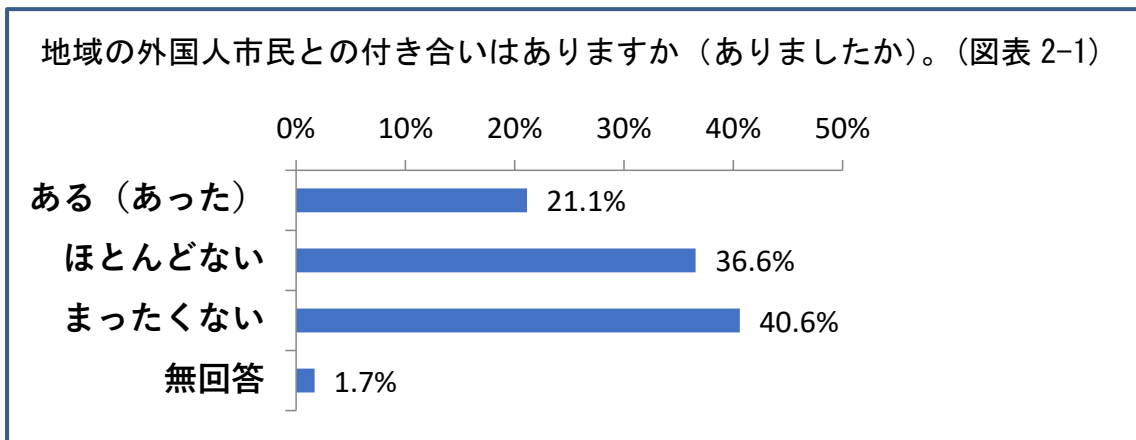


居住地域に外国人市民が住んでいるかについて、「住んでいる」(76.5%)が突出している。次いで、「わからない」(15.5%)、「住んでいない」(6.7%)となっている。(図表 1-1)

#### 《地域別》(図表 1-2)

	n	住 ん で い る	住 ん で い な い	わ か ら な い	無 回 答
八條、鶴ヶ曾根、伊草、新町	98	26.2%	2.7%	3.7%	0.3%
小作田、松之木、緑町一丁目～五丁目	24	4.7%	0.0%	3.0%	0.3%
二丁目、木曾根、南川崎	38	10.7%	0.3%	1.7%	0.0%
上馬場、中馬場、中央一丁目～四丁目、八潮一丁目～八丁目	48	12.4%	1.0%	2.3%	0.3%
圀、大瀬一丁目～六丁目、茜町一丁目	6	1.3%	0.3%	0.3%	0.0%
伊勢野、大瀬、古新田	51	13.4%	0.7%	3.0%	0.0%
大原、大曾根、浮塚	33	7.7%	1.7%	1.3%	0.3%
西袋、柳之宮、南後谷	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	298	76.5%	6.7%	15.4%	1.3%

(2) 外国人市民との付き合いの有無

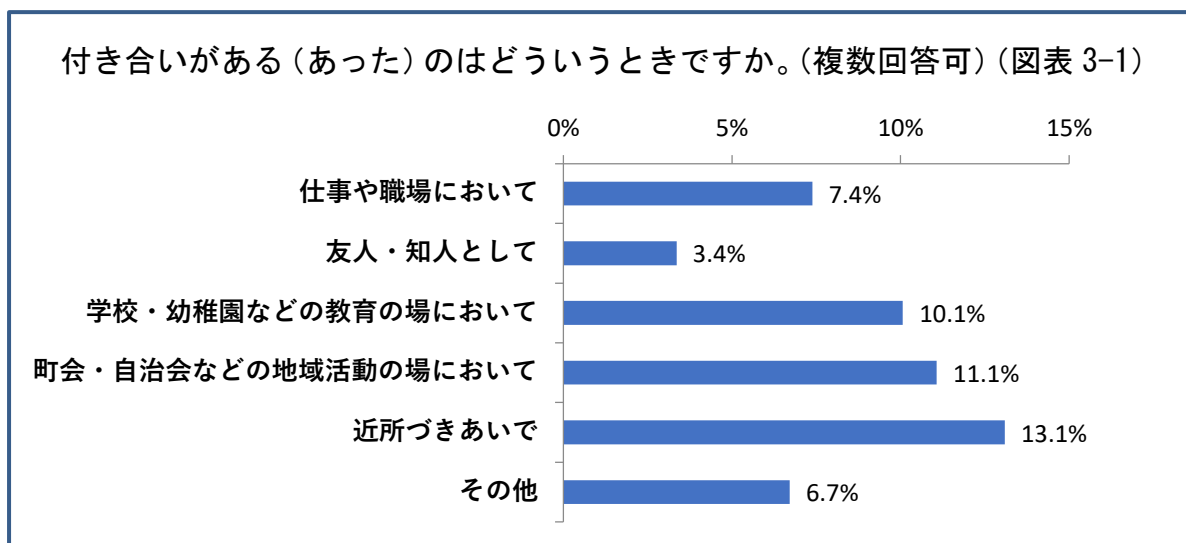


外国人市民との付き合いの有無について、「まったくない」（40.6%）が最も高く、次いで「ほとんどない」（36.6%）、「ある（あった）」（21.1%）となっている。（図表 2-1）

《地域別》（図表 2-2）

	n	（あ あ った）	ほ と ん ど な い	ま っ た く な い	無 回 答
八條、鶴ヶ曾根、伊草、新町	98	7.0%	11.1%	14.4%	0.3%
小作田、松之木、緑町一丁目～五丁目	24	0.3%	4.4%	3.0%	0.3%
二丁目、木曾根、南川崎	38	3.0%	2.7%	7.0%	0.0%
上馬場、中馬場、中央一丁目～四丁目、八潮一丁目～八丁目	48	3.7%	5.7%	6.4%	0.3%
圀、大瀬一丁目～六丁目、茜町一丁目	6	0.0%	1.3%	0.7%	0.0%
伊勢野、大瀬、古新田	51	4.7%	7.4%	4.7%	0.3%
大原、大曾根、浮塚	33	2.3%	4.0%	4.4%	0.3%
西袋、柳之宮、南後谷	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	298	21.1%	36.6%	40.6%	1.7%

(2) - 1 付き合いの場について



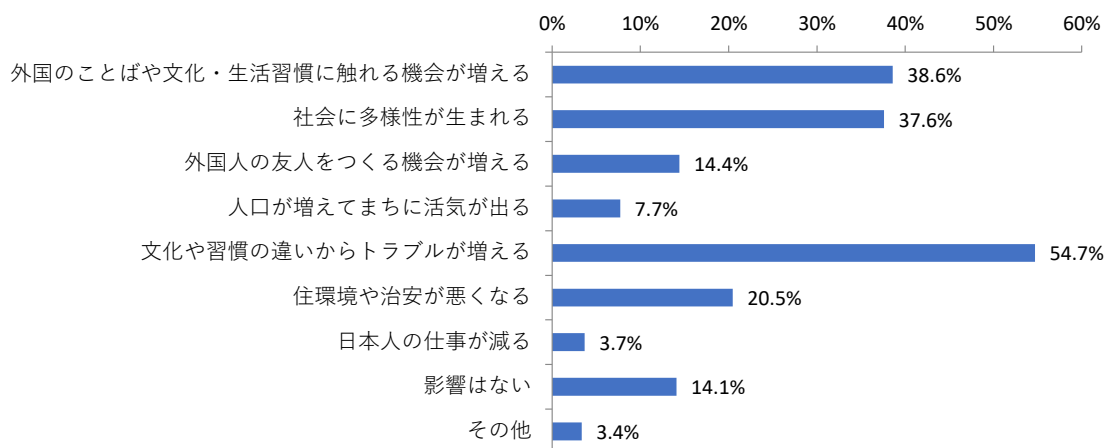
付き合いの場について、「近所づきあいで」(13.1%)が最も高く、次いで「町会・自治会などの地域活動の場において」(11.1%)、「学校、幼稚園などの教育の場において」(10.1%)となっている。(図表 3-1)

【その他の回答(抜粋)】

公平性から住民として知るべき情報を回覧したときなど／コンビニ／東屋などに集まり(数人)会話している中に入り込み一緒に仲間にしてもらおう／ゴミの関係で／町会費の集金、回覧板

### (3) 外国人市民が地域社会に与える影響

地域や職場に外国人市民が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか。(複数回答可：3つ以内)(図表4)



外国人市民が地域社会に与える影響について、「文化や習慣の違いからトラブルが増える」(54.7%)が最も高くなっている。次いで、「外国のことばや文化・生活習慣に触れる機会が増える」(38.6%)、「社会に多様性が生まれる」(37.6%)が続いている。(図表4)

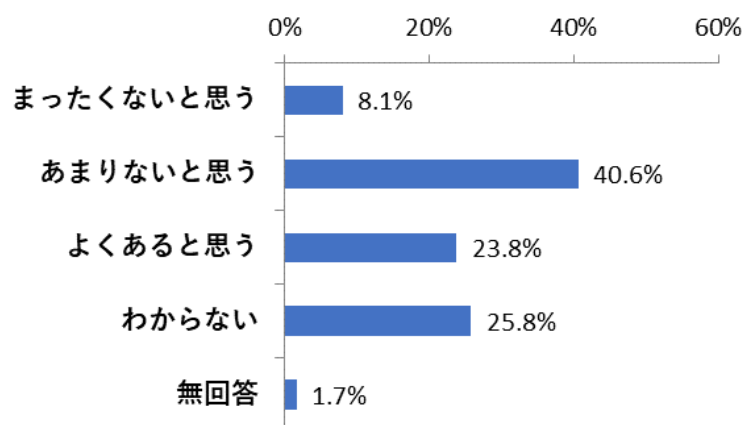
#### 【その他の回答(抜粋)】

あまり好ましく思わない／コミュニケーションが取りにくい



#### (4) 外国人市民への偏見や差別の有無

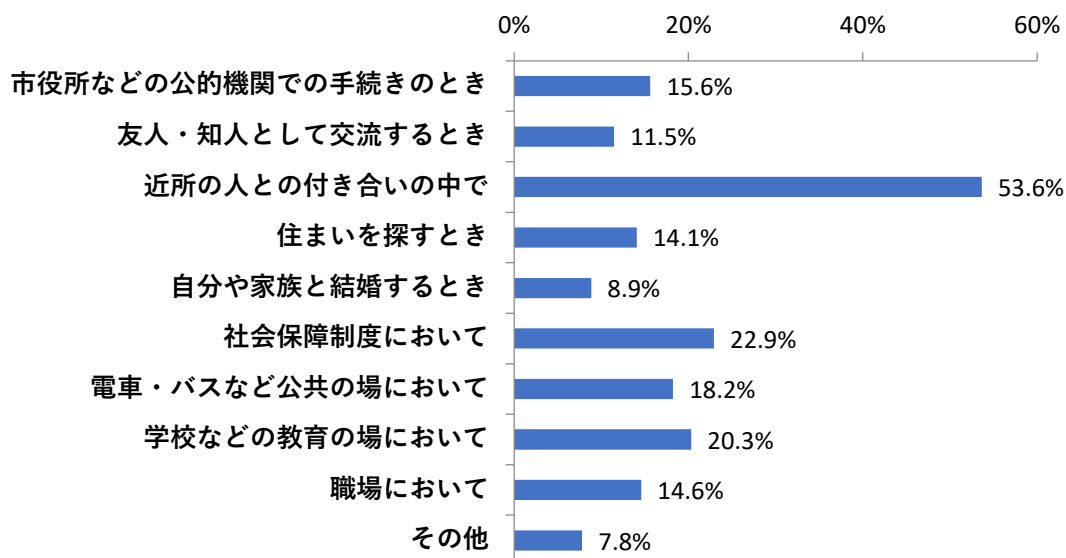
日本人から外国人市民に対する偏見や差別があると感じますか。(図表 5)



外国人市民への偏見や差別の有無について、「まったくないと思う」(8.1%)が1割未満なのに対し、「あまりないと思う」(40.6%)、「よくあると思う」(23.8%)が回答の6割を超えている。(図表 5)

#### (4) - 1 偏見や差別を感じる場面

それはどのような場合にあると思いますか。(複数回答可：3つ以内)  
((4)で「あまりないと思う」「よくあると思う」を選んだ人のみ)(図表6)



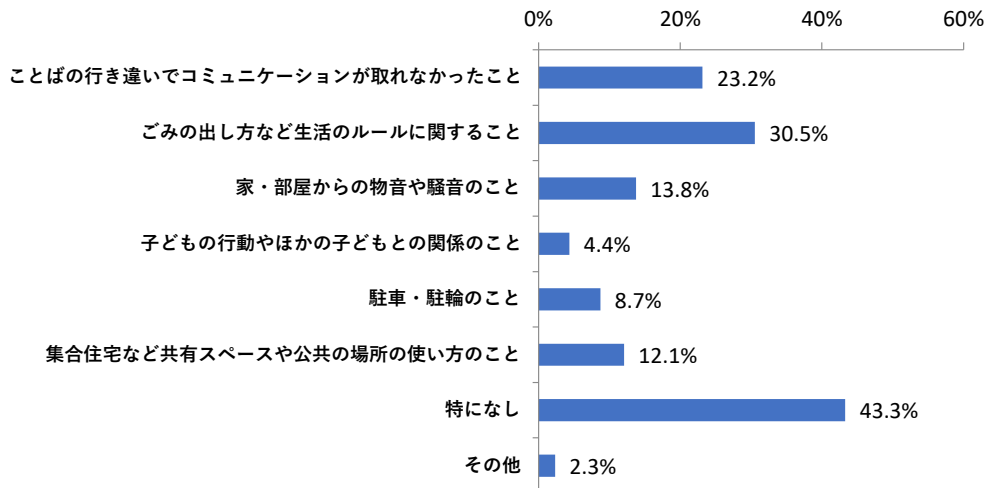
偏見や差別を感じる場面について、「近所の人との付き合いの中で」(53.6%)が最も割合が高い。次いで、「社会保障制度において」(22.9%)、「学校などの教育の場において」(20.3%)となっている。(図表6)

#### 【その他の回答(抜粋)】

病院／何をされるか不安なので、近くにはいかない様にする／偏見／言葉の違いで町会活動等に誘いにくい時がある／島国の日本人からしたら、外国人馴れしていないので警戒心は強くなると思う

## (5) 外国人市民との付き合いで困った経験

今までに、地域の外国人市民との関係で困った経験はありますか。  
(複数回答可：3つ以内) (図表7)



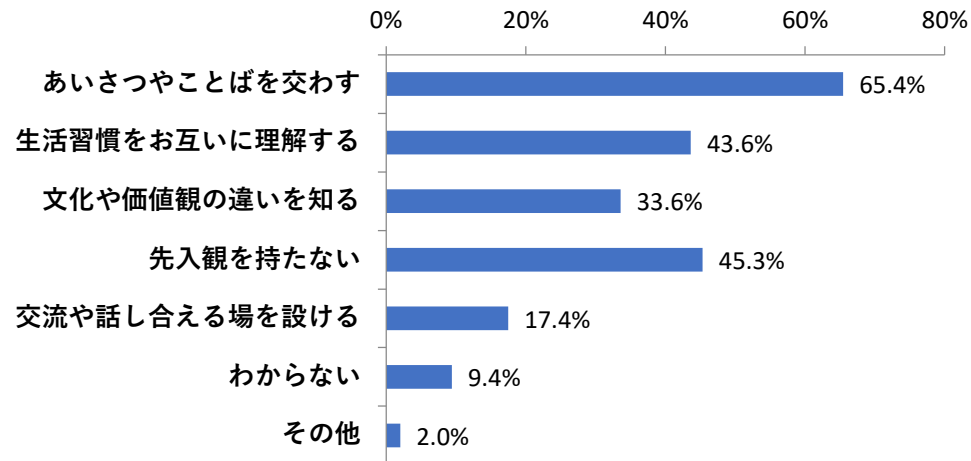
外国人市民との付き合いで困った経験について、「特になし」(43.3%)が最も高い。次いで、「ごみの出し方など生活のルールに関すること」(30.5%)、「ことばの行き違いでコミュニケーションが取れなかったこと」(23.2%)となっている。(図表7)

### 【その他の回答(抜粋)】

買物等のルールで／ふれあう機会がない

(6) 地域で外国人市民と生活するうえで大切なこと

同じ地域で外国人市民と生活していくうえで大切なことは何だと思えますか。  
(複数回答可：3つ以内) (図表 8)



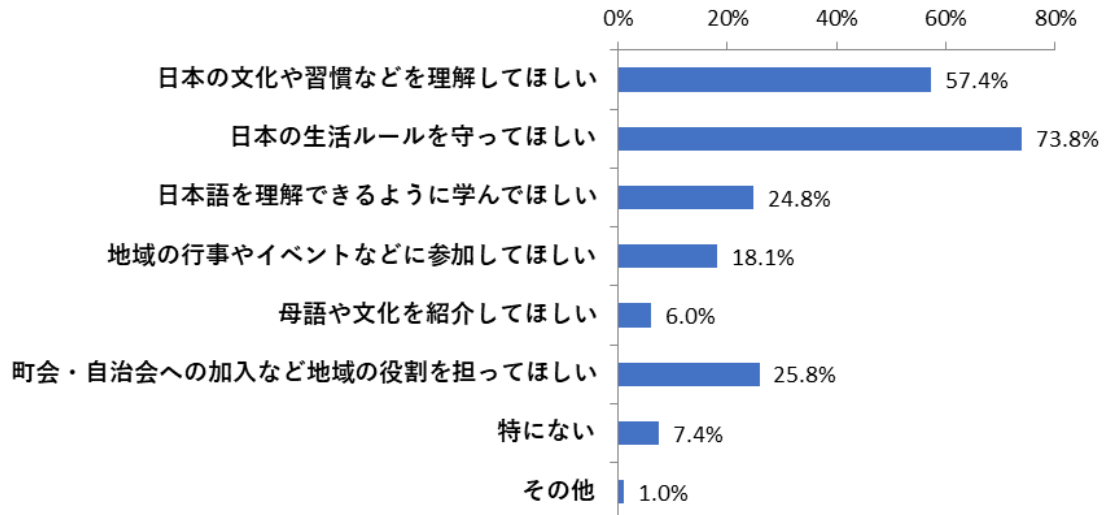
地域で外国人市民と生活するうえで大切なことについて、「あいさつやことばを交わす」(65.4%)が最も高く、「先入観を持たない」(45.3%)、「生活習慣をお互いに理解する」(43.6%)が続いている。(図表 8)

【その他の回答 (抜粋)】

お互いに人間同士であるという理解

## (7) 外国人市民に望むもの

地域で外国人市民と共に暮らすために外国人市民に望むものは何ですか。  
(複数回答可：3つ以内) (図表 9)



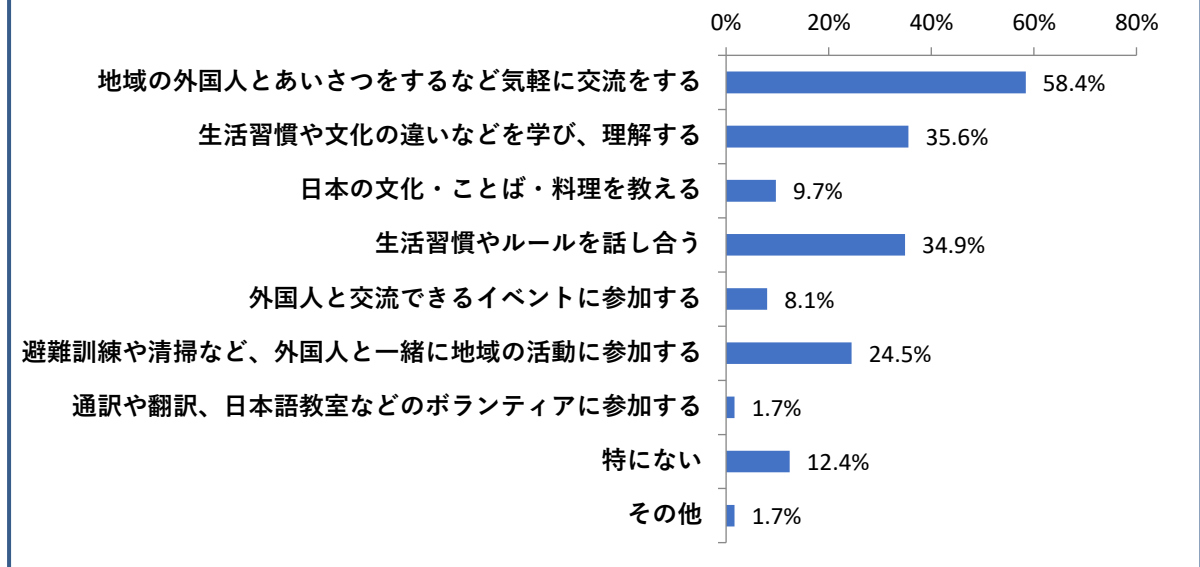
外国人市民に望むものについて、「日本の生活ルールを守ってほしい(73.8%)」、「日本の文化や習慣などを理解してほしい」(57.4%)の割合が高くなっている。  
(図表 9)

### 【その他の回答 (抜粋)】

おそれずに積極的に近づいてほしい／日本に来た事、その事を自覚してほしい

(8) 外国人市民と共生するために自分ができること

地域で外国人市民と共に暮らすために、自分ができることは何だと思いますか。  
(複数回答可：3つ以内) (図表 10)



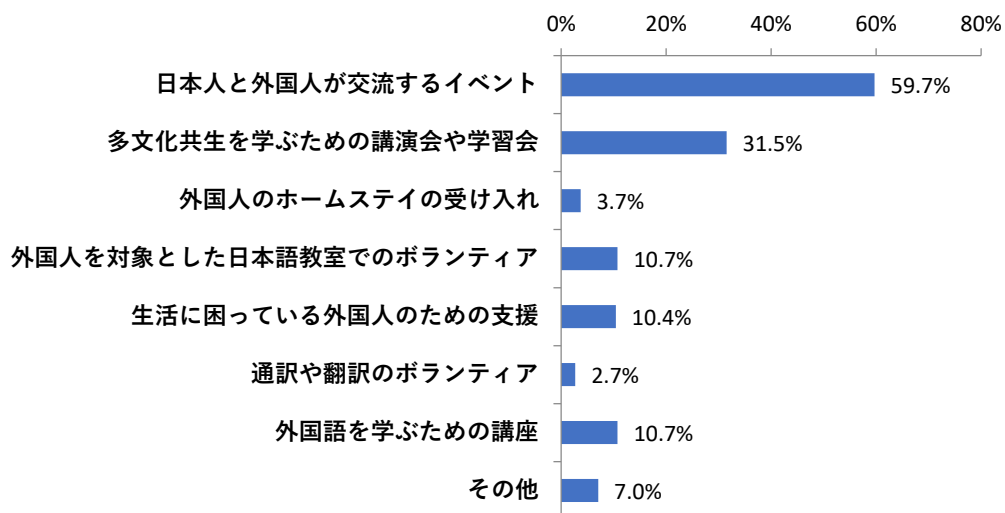
外国人市民と共生するために自分ができることについて、「地域の外国人とあいさつをするなど気軽に交流をする」(58.4%)の割合が最も高く、「生活習慣や文化の違いなどを学び、理解する」(35.6%)、「生活習慣やルールを話し合う」(34.9%)が続いている。(図表 10)

【その他の回答 (抜粋)】

外国人にとって何が必要か理解すること／あまり関わりたくない

### (9) 外国人市民と共生するために参加したい活動

地域で外国人市民と共に暮らすためにどのような活動に参加したいと思いますか。(複数回答可：3つ以内)(図表 11)



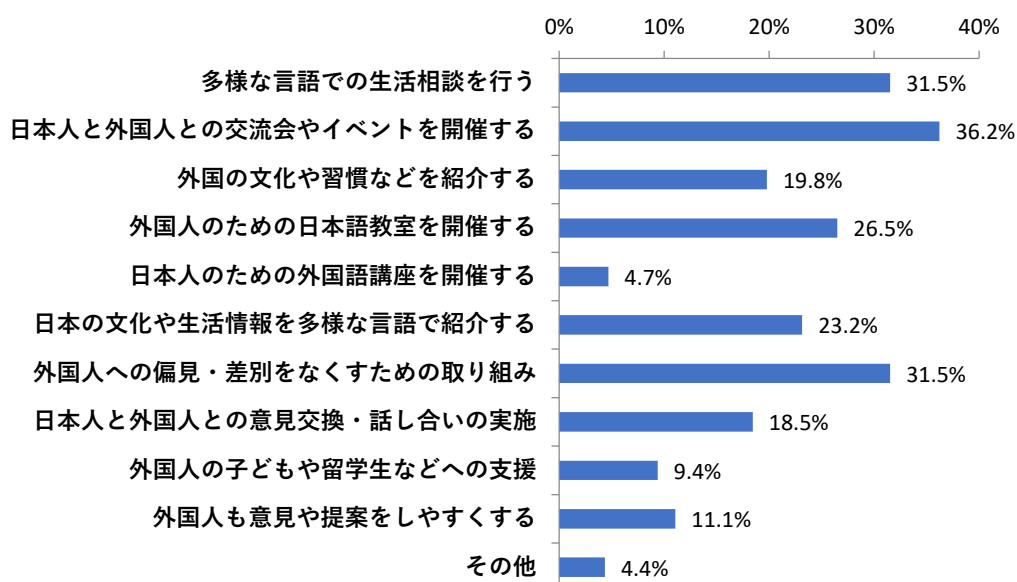
外国人市民と共生するために参加したい活動について、「日本人と外国人が交流するイベント」(59.7%)が突出している。(図表 11)

#### 【その他の回答(抜粋)】

特別に参加したいと思わない／外国人が好んで日本に来たのだから、外国人が日本のルールに従わなくてはならない

(10) 外国人市民との共生のために市役所に求める取り組み

地域で外国人市民と共に暮らすまちづくりを進めるために市役所がやるべきことは何だと思えますか。(複数回答可：3つ以内)(図表12)



外国人市民との共生のために市役所に求める取り組みについて、「日本人と外国人との交流会やイベントを開催する」(36.2%)、「多様な言語での生活相談を行う」(31.5%)、「外国人への偏見・差別をなくすための取り組み」(31.5%)の割合が高くなっている。(図表12)

【その他の回答(抜粋)】

言語難民を出さないよう努めてほしい。特に公立小中学校に通学している外国人の児童生徒／ゴミの出し方など説明してほしい



## (11) 外国人市民との共生のために必要な取り組み

地域で外国人市民と共に暮らすためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(日本人市民の取り組み、外国人市民の取り組みなど)

### 【自由記載一部抜粋】

- ・ 英語を小さい時から学び、コミュニケーションを取れるようにしておく。
- ・ 日本人と外国人との意見交換や話し合いの際、言葉の問題が生じた時サポートしてくれる人がいたら助かると思います。
- ・ 日本人と外国人の交流会やイベントを開催する事と外国人参加数を増やすことだと思います。
- ・ 外国人への偏見、差別をなくす為に、コミュニケーションと交流を多く取る。
- ・ まず自分の方から言葉をかける。おはよう、いってらっしゃい、おかえり等、今ではスーパー等で会うと声をかけてくれます。
- ・ 外国人市民が多いこと、多国籍の文化を学べるということをプラスに考え、八潮市のアピールポイントとしての活用。新住民への発信。今すでに取り組んでいる事業、イベントの内容充実。
- ・ 時間をかけて交流することで、相手を理解するのは、外国人でも関係ないと思います。近所の人とのかかわり方と同じだと思うのです。
- ・ 海外のおまつり（イベント）をもっとやってほしい。
- ・ 日常生活上でのルールを理解してもらう（ゴミ出し等）生活習慣、文化の違いを理解出来るよう時間をかけて地域での文化活動に参加を促す取り組み。  
例：町会等の祭り、夏祭り等に参加してもらう。国別に出店してもらうとか・・・？
- ・ 日本語を理解できるように学んでほしいです。
- ・ 異文化を知る事が大事だと思います。文化交流、相手を知っていく事が大事。
- ・ 英語などで案内できる人が助成金を貰えるようにする（商業・福祉など）。公共施設などの案内を6か国語くらい表記する。
- ・ 外国出身の人に対しては、日本に馴染んでもらうのと同時に自国の言葉、文化に基づくアイデンティティを保持できる環境を整えてあげることも大切と考えます。書店、図書館のほか、例えば定食屋や病院の待合室の本棚から母語で書かれた本を選べる様なら助けになるのではないのでしょうか。
- ・ 輸入品の食材の料理の仕方、食べ方の紹介。
- ・ 近隣に住んでいる方を把握する。困っている方がいる時は声をかける。
- ・ お互いに気軽に交流できるイベントの計画→創意工夫しながら継続的に。(この中より、言葉、生活習慣、差別とかが学べる)